

神社名 御嶽神社
鎮座地 都留市下谷東御嶽二、〇九二番地
祭神 豊玉姫命

須佐之男命
少彦名命



例祭

九月一日

神事用具

神輿保存

神輿の神事は
七月十五日に
行なわれる。

由緒

此の神社は、
もと横町、田
町、弁天町の
三町の産神で
あったが、今
は栄町、幸町
を加えて五町

谷村地区 其の二

の産神である。元禄の横町大火の類焼、大正十二年九月の関東大震災、更に昭和二十四年五月十三日の大火災等三回の災害のため、由緒関係書類など焼失してしまった。

現社殿は昭和二十五年の春竣工したものである。

山梨県市郡村誌に

〔御嶽社〕 村社々地東西五間老尺寸南北五間面積式拾六坪東北東御嶽ニアリ祭神素盞鳴尊大己貴命少彦名命、祭日四月十一日社地中樺大樹アリ。とある。

甲斐国志には

一〔御嶽権現〕 谷村横町、横町ノ産神ナリ祭礼三月十一日神主同上。となっている。

社殿

境内は現在二三四坪ある。

本殿は流れ造りで三尺〓四尺トタン葺である。

神庫一棟、二間〓三間。

鳥居コンクリート造り一基。

狛犬一對、昭和四十三年五月建立。

神灯一對、享和癸天三月十一日
世話人 林屋弥兵と刻まれている。

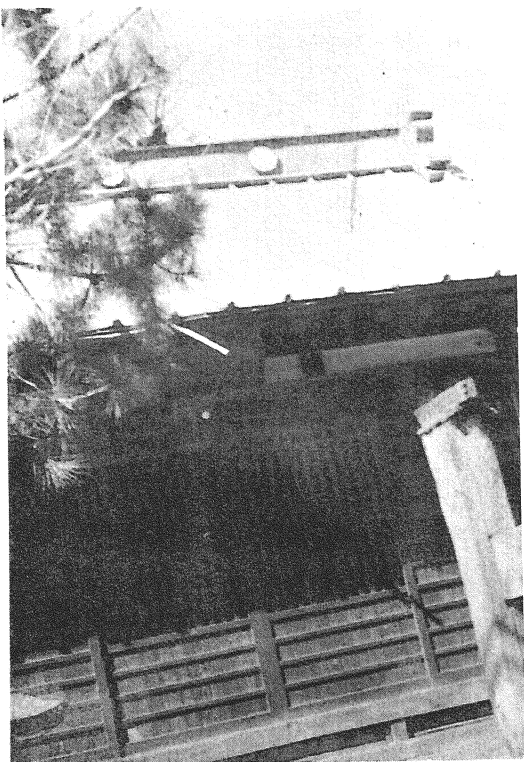
境内社

金比羅

神社名 稲荷社
鎮座地 都留市下谷三九八番地
祭神 豊受姫命 稲魂命
例祭

二月初午 四月二十五日

弁天社、



由緒

豊受姫命は伊勢外宮の祭神であり、稲魂命は京都伏見稻荷神社の祭神である。

寛永十年^{癸酉}（一六三三年）谷村城主秋元但馬守泰朝が奉斎したものであって、代々の領主が崇敬させられたといわれている。

もとは、富士急行線の線路向うに祀られていたが、今は線路前の、もと天台宗の寺であった、源生山三光院境内に遷座されている。

秋元公の領地の鎮守であると共に三光院の鎮守でもあったという。

甲斐国志に

一〔稻荷社〕<sup>下町ノ西北
源生ニアリ</sup>社地見捨地是秋元氏領地ノ時ノ城内ノ鎮守ナリ。とある。また

甲斐国社記には

正一位稻荷大明神 ^{同郡谷村陣中御役所内}

宮礎 九尺、八尺

祭神 豊受気姫命

祭日 二月初午日

と記されている。

社殿

境内約二〇〇坪の中に、入母屋向拝造りトタン葺で、四間二間半の社殿がある。

境内入口に庚申塔一基があり、萬延元年（一八六〇年）四月と刻

まれている。

神灯 境内入口に二対

天保十二年

社殿前に一対

万延元年^{庚申}四月十七日

郡属吏長鈴木坦大夫藤原盛徳

神社名 太子社

鎮座地 都留市下谷長者町

祭神 聖徳太子

例祭

四月十五日

氏子百世帯あつて当番制で行なう。

由緒

社名を別に「徳重社」とも呼んでいる。もとの地に住んでいた人で、徳重という人があり、大変な金持ちであつたため、人呼んで徳重長者といった。これから長者町の名がおこつた。この徳重長者が家の屋敷神様として、聖徳太子を祭神として祀つたのがこの神社の発祥であるといわれている。

長者町から、鷹の巣部落へ行く富士急行線踏切の近く、酒井虎獅狼氏所有の田地が豪族「徳重長者」の住居跡であるという。この

黒駒、体高15cm、体長17cm。

台座、高さ7cm、巾11.5cm、奥行19cm。

甲斐国志には

一〔徳重社〕<sup>下谷村北原
徳重ニアリ</sup>除地下田式畝九歩徳重屋敷<sup>下町ニ
アリ</sup>見捨地

縦式拾式間横拾間寛文検地ノ時兵左衛門持、今藤左衛門所持、神体聖徳太子ノ像ヲ安置ス。と記されている。

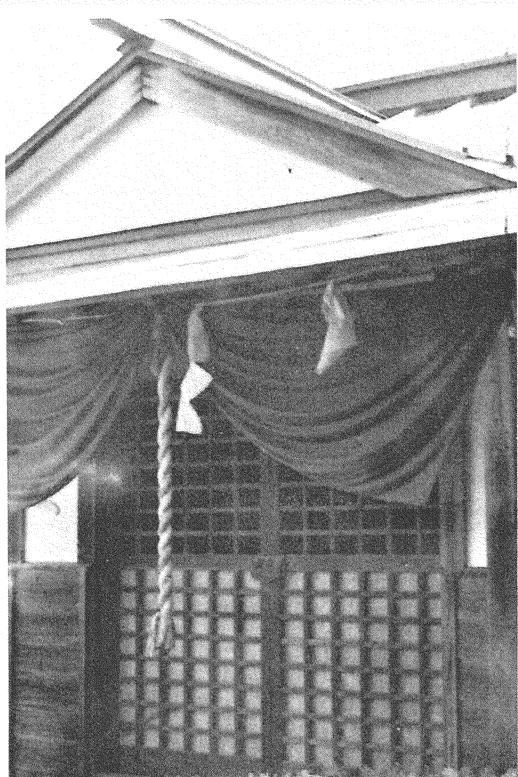
社殿

現在の社殿は、昭和四十七年四月十五日建立落成。

社殿は切妻向拝造りトタン葺で、二間半二間あつて、この中に御神体聖徳太子像がまつられている。

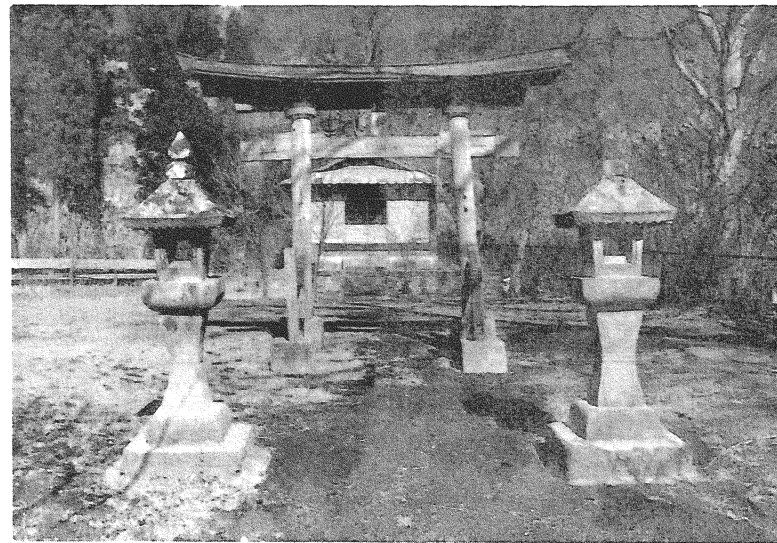
境内約十坪。

神鈴一奉納あり。



御神体の太子像

神社名 白山神社
 鎮座地 都留市下谷鷹之巢九四八番地
 祭神 伊邪那岐尊
 伊邪那美尊
 例祭



もとは一月十二日、三月九日であつたが、今は八月一日に行なわれている。
 神事用具 大太鼓一保存。
 由緒 創立、由緒ともによく判っていないが、伝説によると、鷹之巢の人で、平三郎という人がその時の領主であつ

た秋元但馬守様より、祠をいただいてきて祀つたものであるという。
 山梨県市郡村誌には
 〔白山社〕 村社社地東西拾間五尺四寸南北九間老尺八寸面積百壹坪北方字鷹之巢ニアリ祭神伊邪那岐尊祭日八月三日社地中樺桜大樹二株アリ。と記されている。
 明治五年村社に列せられている。

社殿

社殿は一つでその中に本殿がある。
 本殿は流造り檜皮葺彩色方四尺。
 社殿は入母屋造りトタン葺方三間。
 白山神社の額が掲げられている。
 鳥居木造一基。

神灯一対 明和九天壬辰八月吉日
世話役 勝右エ門、利八 とある。

入口に「南妙法連華経」の碑がある。

高さ60cm、巾22cm、奥行19cm。

寛保元年 辛酉 年（一七四一年）八月二十二日と刻まれている。

本殿両脇に二つの小さな祠がある。

地形的な関係であるのか、境内の一段低くなつたところに社殿が造営されているが、これは大変珍しいことである。

境内で興行の催しをするとき、おどりや、芝居以外のものをするとき、たたり

があると言ひ伝えられている。社宝として能面の白尉、黒尉の二面があるという。

神楽保存

例祭

九月一日。

由緒

この三社神社は、昔山神さまを祀つたところで、今でも小さな祠があり大山祇命、山神大権現が祀られている。

地域の人々は、三社神社のことを、「権現さん」「氏神さん」と呼んでいる。

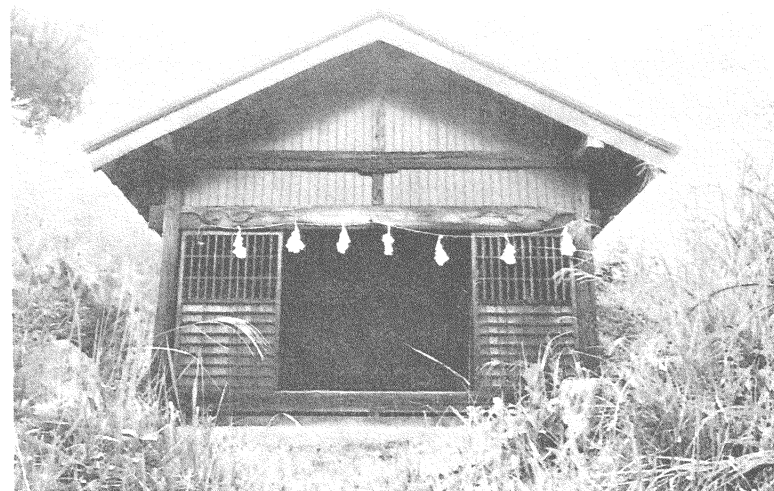
羽根子は、もと金井村の若宮八幡神社を氏神としていたが、明治になつて町村制がしかれ、羽根子村は谷村町に、金井村は宝村にそれぞれ属することになった。そのために新しく社がつくられたといわれている。

社殿

長生寺裏の小高い山の頂きに、かなり広い境内を有し、子供の遊園地として利用されている。また境内から下谷地区の眺めが大変よい。

社殿は一棟で、切妻トタン葺である。中に入ると神棚があつて神殿が三つに分れていて、

中央に御嶽神社、右に八幡神社、左に東照宮が祀られている。それ故に三社神社と呼ばれているのであろう。



神社名 三社神社

鎮座地 都留市下

谷羽根子

祭神 三社あり、

それぞれ

次の神を

祀る。

御嶽神社

少彦名命

須佐之男命

大己貴命

正八幡大神社

彦火出見命

東照宮

家康公命

神事用具

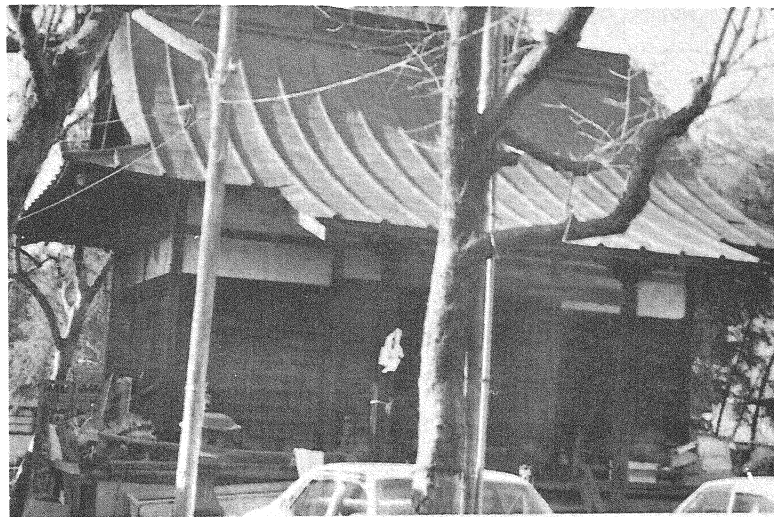
神社名 天神社

鎮座地 都留市新井

祭神 菅原道真

例祭

九月一日、



もとは、一月二十五日、七月二十五日、十一月二十五日に行なわれていた。

神事用具

神楽保存。

由緒

甲斐国志に

一〔天満宮〕新井

社地見捨地。と

ある。創立年、

由緒等不明であるが、境内の大

銀杏や、社殿の

柱などから推測するに相当古いものであることがわかる。

学問の神として信仰を集めたものであるう。社殿の中には俳句の掲額があり、源平合戦の物語を描いた額が奉納されている。

昔はこの辺一帯を「桜の馬場」と呼んでいたとのことである。

社殿

本殿 流造り檜皮葺 方四尺で社殿の中に造り込みである。

社殿 切妻トタン葺 三間Ⅱ二間、

「天満宮」の額が奉掲されている。

神庫 切妻トタン葺 二間Ⅱ一間、

鳥居 木造一基。

神灯 一對 向って左に 嘉永六年六月
当所氏子中

向って右に 横町安達伊三郎奉納
嘉永六年六月

とそれぞれ刻まれている。

力石 一對（丸形のもの）

庚申塔 二体。